

晴れたらいいね

【第45回石川の農林漁業まつり】

穴水町出身の現代画家 大森 慶宣 氏に
「能登」と「人々の絆」、「農林漁業」をテーマに、
復興を願いながら一筆書きで絵を描いていただきました



能登をつなぐ
ライブペインティング
パフォーマンス

大森慶宣

石川県穴水町出身。魚沢大在学中にアメリカに留学し美術を学ぶ。卒業後本格的に作家活動を開始。独自に編み出した一年の輪で一気に描くワンストローク技法をもとに、スタイルにとらわれない自由な発想の作品を発表し続けている。その他にも数回イベント、ライブイベント、テレビ出演、映画制作や様々な企業とのコラボレーションと幅広く活動をしている。

目次

特集 令和6年能登半島地震・奥能登豪雨からの復旧・復興について

現地ルポ
奥能登、石川

p4

いしかわ
農業振興協議会だより

p9

東京事務所だより
大阪事務所だより

p5

いしかわ
農業総合支援機構だより

p10

行政情報

p6

研究ノート

p11

【石川の農林漁業まつりでの応援メッセージ】

令和6年10月19日(土)、20日(日)に県産業展示館で「第45回石川の農林漁業まつり」を開催し、能登の農林漁業者の皆さまからのコメントと顔写真、被災状況をパネル展示し、多くの来場者の方に応援メッセージを書き込んでいただきました(下記画像)。

下記画像のカラー版、その他農林漁業まつりの様子は県ホームページに掲載しています。

農林漁業まつりの様子はこちら(県HP) →



【奥能登営農復旧・復興センターの設置】

令和6年11月28日(木)、JAのと本店内に「奥能登営農復旧・復興センター」を設置しました。地震や豪雨の二重災害により被災した奥能登の農業者の皆さまの営農再開に向け、今後とも県、国、市町、JA等の関係機関が一体となり伴走支援していきます。

農地の復旧や営農再開に向けた支援事業に関する相談を受け付けています。
支援メニューは県ホームページに掲載しています。

支援メニュー(県HP) →



農業・林業・漁業の生



【地震・豪雨に係る農業者支援策】

農業者が自ら行う被災農地等の復旧への支援

堆積土砂や流木の撤去、収穫できなかった農作物残さのすき込み、ほ場の均平化、納屋の清掃、土づくり等に係る費用を支援（補助：定額上限12,000~30,000円/10a）

被災後の作業で故障した農業機械への支援

被災後の収穫作業等で故障した農業機械の修繕費を支援（補助率：2/3以内）

農業機械・施設等の修繕・再取得への支援

被災した納屋、格納庫、パイプハウス、田植え機、コンバイン等の修繕、再取得、撤去、施設の補強を支援（補助率：9/10以内（修繕・再取得）、7/10以内（撤去・補強））

※豪雨による二重被災の（事業導入した機械・施設が豪雨で壊れた）場合は、再取得費用等を全額支援

人手確保の支援

- ・能登農林水産業ボランティア
草刈り・泥上げなどの共同活動を支援するボランティアを派遣
- ・農業人材マッチング促進事業
田植え補助や野菜・果樹の整枝、受粉などの農作業のお手伝いを行う応援者を派遣（一部交通費助成）

支援いただける方募集！

県HPから作業内容・日時などを確認して直接ご応募ください！



（共同活動）
能登農林水産業
ボランティア



（農作業）
農業人材
マッチング

産者を応援しよう！

ヤンぱらるてりりです しくしくとやて下エい(やんぱてりりのほか、てす)



現場レポート

ボランティアの派遣で被災農家を支援しています

奥能登発

令和6年1月1日に発生した能登半島地震や9月の集中豪雨により、奥能登の農業は大きな被害を受けました。県では令和6年4月以降、営農の再開・継続に向けた支援として、能登農林水産業ボランティアの派遣を行っています。

これまでに依頼が多い作業は、水路の泥上げ、草刈り、納屋や施設の片付けで、豪雨で水田へ流れ込んだゴミや流木等の片付けなども行っています。奥能登2市2町では、令和7年1月末までに326件、延べ2,306名と多くのボランティアにご支援を頂きました。

被災農家からは、綺麗に片付いたハウスを見て、次の作付けへの営農意欲が湧いてきた等の声を頂いています。

奥能登農林では被災農家の声を聴き、ボランティアが必要な作業や時期、人数等を把握して募集調整するほか、作業を行う際には、草刈機やスコップ等の必要な用具を準備するなど、被災農家に寄り添い、現場での地道な復旧・復興を支援しています。

長期の避難等で地域の共同活動の人手が不足して困っている場合等、お気軽にご相談ください。



草刈り作業開始前の説明



出荷できない農作物の片付け作業支援

※いずれもビブスを着用しているのが能登農林水産業ボランティア

稲WCSの生産拡大の支援

石川発

白山市の(株)有機センター白山（以下、「有機センター」）は市内畜産農家の糞尿の堆肥化と稲WCSの収穫、調製及び販売をしています。

近年、輸入飼料価格の高騰から国産飼料の需要が高まり、稲WCSの増産が期待されていましたが、地域の需要量が不透明なことや、有機センターの作業能力不足もあり、増産が困難な状況でした。

このため、当事務所は畜産農家の当面の需要量を調査した上で、有機センターに対して、高性能な裁断型WCS収穫機等の導入による面積拡大を提案したところ、令和5年に国補助事業を利用して機械を導入し、令和6年は導入前の1.6倍となる38haまで面積を拡大することができました。

また、需要の掘り起こしも同時に進め、新たに

2農家(酪農)が利用を開始しました。

令和6年には稲WCS専用品種を試験導入し、単収増加、品質向上や作期分散など供給量の拡大に向けた対策に取り組んでいるところです。今後も松任地区における耕畜連携の取組を支援していきます。



裁断型WCS収穫機

東京事務所だより

新アンテナショップで 県産農林水産物をPR



県アンテナショップでの県産農林水産物の販売

令和6年3月、県のアンテナショップは北陸新幹線の県内全線開業にあわせ銀座から移転し、「八重洲いしかわテラス」として東京駅から徒歩4分の立地にオープンしました。

店舗では、観光情報や災害からの復旧・復興状況を発信するとともに、石川県ならではの魅力あふれる商品を紹介しています。

店内には、地酒を楽しめる飲食エリア、季節にあわせた旬の商品の特設販売や試食などのイベントを開催できるスペースもあり、今年度は、石川県産ブランド農林水産物「百万石の極み」のPRイベントを5回実施しました。8月末には県オリジナル品種のぶどう「ルビーロマン」と梨「加賀しずく」の試食販売を実施した

ところ、お客様は果実の甘さとみずみずしさに大変驚いていました。

今後も産地や関係機関と協力しながら、首都圏の消費者の皆様へ、県産農林水産物の魅力を定期的に発信し、認知度向上を図っていきます。

大阪事務所だより

関西で県産食材をPR

大阪事務所では、令和6年1月1日の能登半島地震以降、関西地域のホテルや企業等から石川県産品の消費を応援したいというご相談をいただくようになり、関西に流通している旬の県産農産物や百万石の極みを中心とした県の魅力ある食材の紹介を行ってきたところです。

実際に、関西のホテルレストランや飲食店で県産食材を使用したフェアの開催や、企業や自治体主催のイベントに無償で石川県応援ブースを設置いただくなど、応援消費のご協力をいただいております。県主催のイベントとして、昨年オープンしたKITTE大阪において、北陸3県情報発信拠点「HOKURIKU+」と連携し、能登復興イベント「のともっとMARCHE OSAKA」を開催し、たくさんのお客様に能登を中心とした県産農産物や加工品をご購入いただくなど大変好評でした。

今後も、こうした活動を通して、関西地域での県産食材の認知度向上、消費拡大を図っていきます。



兵庫県での出店風景

3大都市圏で復興フェア「のともっとMARCHE(マルシェ)」を開催

ブランド戦略課

能登半島地震及び奥能登豪雨で被災した能登地域の農林漁業者を支援し、応援消費の機運を高めるため、「のともっとMARCHE」と称し、東京、大阪、愛知、京都において、能登を中心とした農林水産物や加工品を販売する復興フェアを開催しました。

第1弾は、令和6年8月20日に、東京の丸の内ビルディングにおいて21者が出店し、能登野菜や能登牛、船凍イカ、日本酒などを販売しました。会場には馳知事、西沢JA全農いしかわ運営委員会会長、笹原JFいしかわ組合長も訪れ、「生産者は生きていくために必死。買って食べて応援してほしい。」と被災地への応援消費を呼びかけました。元プロ野球選手の松井秀喜さんからの応援メッセージや、能登の農林漁業者の復旧・復興の現状を伝える動画も放映しました。また、フェア開催日から2週間、丸の内ビルディングや東京駅周辺のレ



応援消費を呼びかける知事ら

ストラン20店舗において「能登・石川のグルメフェア」を開催し、能登牛や県産米などの県産食材を使用した料理を提供し、能登の食材の魅力を発信しました。

大阪では、11月22、23日の2日間、大阪駅に直結する商業施設「KITTE (キッテ) 大阪」においてフェアを開催し、23者が出店しました。知事がトップセールスに立ち、西沢JA全農いしかわ運営委員会会長、嶋崎JFいしかわ副組合長とともに能登棚田米のおにぎりを配布し、応援消費を呼びかけました。

フェアに出店した生産者からは、「営農に向けて厳しい状況にあるが、生業を継続しようという意欲が沸いた」といった声、お客様からは、「石川の産品をもっと買って応援したい」といった多くの励ましの声をいただきました。

愛知では「あいちの農林水産フェア」(11月9、10日)、京都では「京都府農林水産フェスティバル」(11月30日、12月1日)に復興応援ブースを出店し、応援消費の輪を広げました。3月には県内での開催を予定しており、フェアを通じて応援消費を促進していきます。



にぎわう出店ブース

■水田園芸の推進について

生産振興課

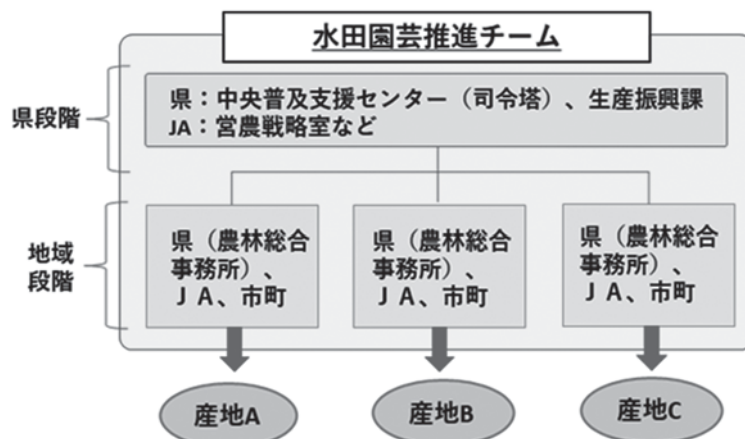
1 主食用米の需要減少

本県農業の主力品目である米は、人口の減少などにより、長期的には需要が減少していくことが見込まれます。こうした中、水稻農家の所得確保に向けては、大麦・大豆や、収益性の高い園芸品目等への作付転換を図ることが重要になっています。

2 水田園芸の推進

水田における園芸品目の栽培については、栽培技術の習得や収量の安定化に時間がかかることや、野菜専用機械等への新たな投資が必要となること等から、水稻農家の多くが、園芸品目の導入に不安を抱えているのが現状です。

そこで、県では、水田園芸の推進に向け、令和5年度より「水田園芸推進による農業収益力向上事業」で、水田園芸に取り組む地域・水稻農家に対して、先進地視察や栽培技術実証など産地づくりに必要な経費や、栽培にかかる経費等を支援しているほか、JAや市町と連携し「水田園芸推進チーム」を立ち上げ、水田園芸品目の産地化や既存産地の拡大を目指す地域に対し、①産地の合意形成、②経営モデルの提案、③栽培技術の指導、④販路開拓の支援など生産から販売までの伴走支援をしています。



[水田園芸推進チームのイメージ]

3 取組の経過

現在、「ブロッコリー」、「かぼちゃ」、「白ねぎ」、「たまねぎ」の4品目で、9産地が県事業を活用して水田園芸の推進に取り組んでいます。令和5年度は、新規生産者が40名、栽培面積が約13ha増加し、令和6年度は、新規生産者が42名、栽培面積が約14ha増加しています。

新規生産者や栽培面積が増加している一方、集中豪雨や猛暑などの近年の異常気象により、ベテラン農家でも収量が減少している状況です。そのような中で栽培経験の浅い新規生産者は、思うような収量が得られておらず、収量の向上が最大の課題となっています。

県としては、水田園芸推進チームによるきめ細かな栽培指導により取組地域の収量向上を図るとともに、引き続き、水田園芸に意欲的に取り組む地域・水稻農家に対し、市町やJAと連携して集中的に支援することで産地化の動きを広げ、水田園芸の取組拡大を図っていきます。



かぼちゃの栽培講習会



排水対策講習会

令和7年度いしかわ里山振興ファンド公募事業について

里山振興室

「いしかわ里山振興ファンド」では、里山里海の地域資源を活用した地域の活性化につながる取組を支援しています。

令和7年度は、6月頃から公募を行う予定です。公募事業への申請に向けてのご相談は、お気軽に最寄りの農林総合事務所または里山振興室までご連絡ください。公募開始前に説明会の開催を予定しております。日程は決まり次第、下記ホームページに掲載します。

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/satoyama/fund>

「いしかわ里山振興ファンド」で検索



助成メニュー（R7.2月時点）

里山里海の地域資源を活用した生業の創出

- 新商品・新サービスの開発支援
- 新商品・新サービスの開発に係る事前調査支援
- 開発した商品・サービスの改良・販路開拓支援

チャレンジ精神旺盛な「生業の担い手」の参入支援

- 地域資源を活用した生業に取り組もうとする地域の若者や移住者に対して奨励金を支給

里山里海地域の振興

- 里山里海地域を元気にするイベント支援

スローツーリズムの推進

- 多様な滞在メニューの開発支援
- 地域の合意形成に向けた支援
- モデル的な取組への総合支援

いしかわ里山振興ファンドで支援した商品例

これまでに358件の事業を採択し、里山里海の地域資源を活用した新商品開発等を支援



奥能登の柚子等を使ったクラフトジン (NTG)



能登産ブルーベリーのソース (ひらみゆき農園)



県産材を活用したギターやウクレレ (近撥弦楽器)

このほか、令和6年能登半島地震の被災地域向け支援メニューとして、被災農業法人等の事業再建や、世界農業遺産の構成資産の維持復旧についても支援しています。令和8年3月31日まで随時募集していますので、詳しくは下記ホームページをご覧ください。

https://www.pref.ishikawa.lg.jp/satoyama/fund/r6koubo_hisaitiikisien.html



【お問合せ先】 里山振興室生業づくりグループ (TEL 076-225-1631)

いしかわ農業振興 協議会だより

令和6年度いしかわ農業振興協議会 経営改善及び地域農業振興表彰受賞者決定!

今年度の「いしかわ農業振興協議会経営改善及び地域農業振興表彰受賞者」が決定しました。

【経営改善部門受賞者の概要】

【優秀賞】	徹底した生産効率の向上と3世代の家族経営で持続的な大規模土地利用型農業を実現 有限会社フロンティアはら 代表取締役 原 雅幸 氏 (羽咋市本江町)
【経営類型・規模】	水稲 86.3ha、大麦 24.8ha、そば 24.8ha、野菜 2.8ha 計 138.7ha
【労働力の構成】	常時従事者 5 人、常時雇用 4 人、臨時雇用延べ 500 人日
【経営の特徴】	家族経営の法人としては、県内最大の経営規模を誇る。急激な規模拡大に対応するため、スマート農業実証事業を活用して、ドローン直播、ロボットトラクター、直進アシスト田植機、収量コンバイン等のスマート農機を組み合わせた省力化栽培体系を構築している。また、乾燥調製ラインの配置を工夫したワンオペレーションで作業ができるライスセンターを活用する等、徹底した省力化や効率化に努め、大規模経営を実現している。

【優秀賞】	原料ぶどうの地産地消を核としたワイナリー経営 能登ワイン株式会社 代表取締役 村山 隆 氏 (穴水町字旭ヶ丘)
【経営類型・規模】	醸造用ぶどう 4.0ha、ワイン製造量 12 万本～15 万本/年
【労働力の構成】	常時従事者 4 人、常時雇用 5 人、臨時雇用 1 人
【経営の特徴】	県内初のワイナリーで、地元産の高品質な醸造用ぶどうを原料としたワイン造りを行っており、能登の特産品の創出と醸造用ぶどう産地の形成に大きく寄与している。 平成 23 年からぶどう栽培に着手し、強酸性重粘土壌である奥能登において、地元の牡蠣殻などを利用した土づくりや湿害に強い品種選定などに取り組み、条件不利地におけるぶどうの栽培技術を確認するとともに、地元農家と共同出荷体制を構築し、安定したワイナリー経営を実現した。

【地域農業振興部門受賞者の概要】

【優秀賞】	メロンの直接販売と6次化に取り組む地域女性農業者のオピニオンリーダー 吉川 香里 氏 (能美市辰口町)
【経営類型・規模】	メロン 21a、軟弱野菜 46a、トマト 1a、レタス 17a、その他野菜 120a
【労働力の構成】	常時従事者 1 人、常時雇用 6 人、臨時雇用 4 人
【取り組みの特徴】	平成 9 年から女性 1 人で農業を始め、子育てと両立しながら、高度な技術を要するメロンを軸に、直売に向く野菜を栽培している。主軸のメロンは生しばりジュースに加工することにより、高単価を実現させている。 就農時に農地の確保など苦労した経験から、就農希望者の研修受入に積極的に取り組むほか地域の親子を対象とした野菜の収穫体験を継続して行うなど、地道な生産活動に加え、後継者育成や食育などの功績が認められ、農業委員や JA 能美の理事として地域農業を牽引する存在となっている。

【優秀賞】	中山間地域における水稲・大豆の大規模生産及び6次産業化による地域の魅力づくり 有限会社河内農村振興公社 代表取締役 谷口 清次 氏 (白山市河内町)
【経営類型・規模】	水稲種子 22.1ha、水稲 15.5ha、大豆 5.8ha、その他 0.8ha
【労働力の構成】	常時従事者 1 人、常時雇用 5 人、臨時雇用 19 人
【取り組みの特徴】	旧河内村と JA、生産者が地域を守るため設立した法人 (H28 以降は生産者のみで構成) で、水稲種子栽培を基盤とし、22ha を作付している。令和 6 年から基盤整備事業が始まり、大区画ほ場での栽培や水管理システム導入など効率的な農業を目指している。 自社生産した大豆を 100% 使用した豆腐や油揚げを加工製造し、直売所や食堂で提供しており、ホワイトロードを訪れる観光客には白山市の特産品として定着している。地域からの雇用や子供たちへの豆腐加工体験を行い、地域農業の振興にも寄与している。

【優秀賞】	将来を見据えた持続可能で人や地域に喜ばれる大規模集落営農 農事組合法人ファーム東蚊爪 代表理事 庄田 純一 氏 (金沢市東蚊爪町)
【経営類型・規模】	水稲 60.1ha、ブロッコリー 20.0a、切り花葉ぼたん 1.0a
【労働力の構成】	主たる従事者 (役員) 8 人、臨時雇用 (作業員) 23 人
【取り組みの特徴】	集落営農組織として地域の先駆的存在で、持続的な組織運営のため積極的な後継者確保に努めており、農業未経験者向けには栽培マニュアル勉強会や SNS でのリアルタイム指導により技術習得を支援している。 主力のひやくまん穀は県内トップレベルの収量を誇り、コシヒカリなどとの作期分散や密苗の導入で農機やハウスの稼働率を上げ、収益性を高めている。また、露地でのブロッコリー栽培や育苗ハウスでの切り花葉ぼたん栽培に取り組み、水田園芸の優良モデルとして地域農業を牽引している。

いしかわ農業総合 支援機構だより

農業系高校・石川県立大学と連携した 農業人材確保の取組

令和5年度から、農や食に関心の高い生徒・学生が多い農業系高校や県立大学を対象に、就農に向けた意欲喚起や情報提供、農業法人での農業体験など、新規学卒者からの農業人材確保に向け、体系的なサポートに取り組んでいます。

具体的には、農業系高校の1年生を対象に、職業としての農業への関心を深めてもらうため、地域で活躍する農業法人の仕事内容や最新のスマート農業技術を知ることができる「農業法人見学会」や「意見交換会」を実施しました。

実施後のアンケートでは、「ドローンやAIの活用など、想像以上に機械化が進んでいた」、「農業にも会社があり、非農家からでも就農できることを知った」等、農業の印象が変わったとの感想が多く、取組の効果を実感しています。

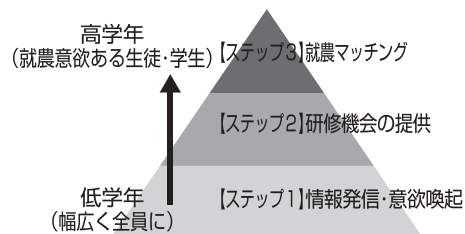
また、2・3年生には、農業への関心が高まった生徒を対象に、「高校生向け農業インターンシップ」や「いしかわ農林漁業就業合同面談会」への参加を促進することで、より具体的に就農を検討できる機会を提供しています。

石川県立大学では1年生を対象として、先進的な農業法人の経営者をゲストに招き、農業の魅力やスマート農業技術を活用した新たな取組について紹介する講演会を実施し、学生からは「農業のやりがいや必要性を改めて感じた」、「新技術の導入が進み農業のイメージが変わった」などの感想をいただきました。

また、「大学生向け農業インターンシップ」では、学生が参加しやすいよう、受入農業者リストの情報提供やマッチング、研修先までの交通費等の補助を行い、今年度は県外を含め1年生から3年生までの大学生延べ14名が参加しました。

参加した学生からは、「法人就農したい気持ちが高まった」、「加工・販売業務もさせてもらったが、やっぱり生産に携わりたい」等、今後の進路選択において貴重な体験だったとの感想が多く、新規就農につながることを期待しています。

当機構では、今後も多様な農業人材確保の一つとして、新規学卒者の確保に向けた取組を継続していきますので、農業者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



ドローンによる散布実演見学（七尾東雲高校）



農業インターンシップ研修（大学生）

飼料用稲栽培に適した混合堆肥生産技術の開発

農林総合研究センター 畜産試験場 技術開発部

1 背景・目的

近年、ロシア・ウクライナを取り巻く国際情勢等から、化学肥料価格が高騰しており、肥料効果を期待できる家畜糞堆肥への注目が集まっています。また、輸入飼料価格についても高止まりの状況が続いている中、畜産農家では自給飼料の生産に関心が高まっています。

そこで当試験場では、これまでは主に土づくりのために利用されてきた家畜糞堆肥が自給飼料生産のための肥料として有効に活用できるよう、形状や肥料効果等について研究を行っています。

2 研究内容

(1) 飼料用稲の栽培に適した混合堆肥の作出（R6～7年度）

飼料用稲の栽培に必要な肥料成分を満たすには、堆肥のみでは不足するため、牛糞堆肥をベースとして、不足する肥料成分を化学肥料や異なる畜種の堆肥で補った混合堆肥を作出し、その肥料効果を調査します。

(2) 混合堆肥のペレット化（R7～8年度）

これまで堆肥はマニュアルスプレッダー等で散布してきましたが、マニュアルスプレッダーを保有する耕種農家が少ないため、一般的な耕種農家でも保有しているブロードキャスターでも肥料として散布できるように、(1)で検討した混合堆肥をペレット状に加工し、その肥料効果や保存性等について調査します。



図1 混合堆肥ペレットの概要

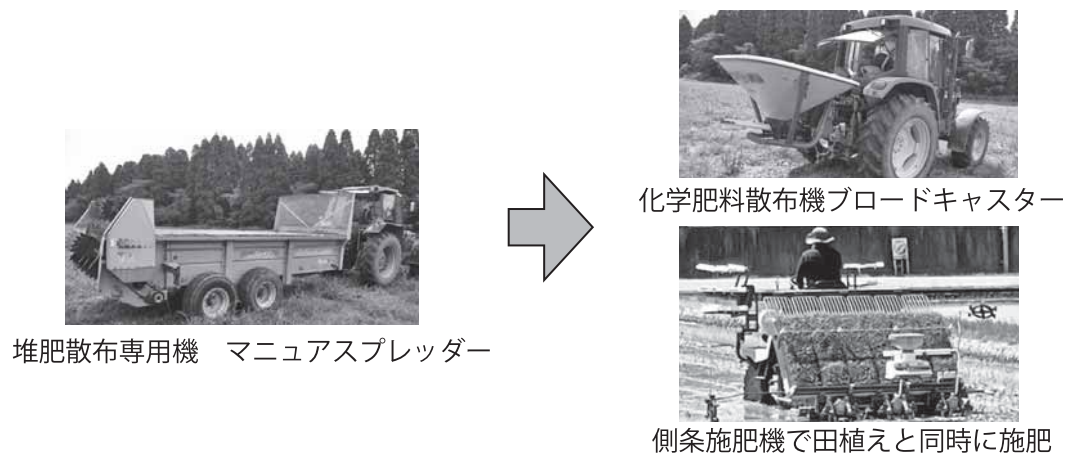


図2 ペレット化することで、ブロードキャスターや側条施肥機で散布可能

(3) ペレット混合堆肥の利用実証試験（R7～8年度）

調査結果を基に作出したペレット混合堆肥を、飼料用稲生産圃場で実際に散布し、その効果を調査します。

3 おわりに

今回は飼料用稲を対象とした調査となりますが、今後、混合堆肥生産技術が確立されれば、堆肥と化学肥料の混合割合やペレットの形状等を調整することで将来的には様々な農作物にこの技術を活用できるものと考えています。

肥料として混合堆肥を利用することができれば、堆肥の利用がより一層拡大すると期待しています。



KITEN
SCHOOL
キテンスクール

＼ 憧れの在宅ワークもできちゃう！ ／

子育てママ・パパも

デザインで在宅ワーク！

オンライン

自宅でも学べる
デザインスクール

デザインスクールの
資料が
ダウンロードできます



デザインスクールの
無料体験を
お試しいただけます



KITEN SCHOOL はデザインをイチから学べるデザインスクールです。

デザインに興味のある方、スキルを獲得して将来の仕事や副業に役立てたい方を対象としています。

ソフトの使い方を自習形式で学んでいながら、わからないことは何でも質問できます。

基礎から応用まで、デザインの現場で活かせるスキルをお伝えします。

デザインを学んでスキルアップ・副業・転職・独立・趣味等可能性を広げよう!!

Try it!



大阪府高槻市城北町1丁目14-17-501 TEL.072-668-3275 運営/株式会社ウィット

令和6年度 農業情報誌「晴れたらいいね」第2号(通巻125号)

ご意見・ご感想をお寄せください(HPからも受け付けています)

令和7年3月発行 発行者 石川県農林水産部農業経営戦略課

TEL.076-225-1613 FAX.076-225-1618
メールアドレス e210100@pref.ishikawa.lg.jp

HPはこちら
<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/housei/suisin/haretaraiine.html>

